

## 明日香村地域おこし協力隊活動報告書 2025年9月 徳力一志

9月に入っても厳しい暑さが続きました。経験豊富な先輩農家の方々も皆年々気温が上がっていると語ります。これまで栽培できていた作物が枯れてしまったり、害虫の生態サイクルが変わったりもしているそうです。しかし下旬頃からは気温も下がり、いよいよ収穫の秋を迎えることになりました。



9月12日、去年と全く同じ日にイノシシが田んぼに侵入しました。新米を心から待ち望んでいるのは我々人類だけではないようです。しっかり備えたつもりでもやつらは隙を見破り荒らしに来ます。泥や稲穂が最高の遊び場のようです。僕たちも今年こそは守り切ってやると意気込んで対応しました。



キトラ古墳国営公園内の圃場で栽培している古代稲も出穂し見ごろとなりました。「神丹穂」と呼ばれる赤米です。今年はビールになるみたいです。また、しめ縄用の藁材として、古代米である「種子島」も栽培しており、こちらは穂が未熟な状態で刈り、影干して冬に備えることとなります。



冬の収穫を目指し、ブロッコリーとキャベツの種を撒きました。無事育つか楽しみです。その他にも、村内で果樹の栽培をしている農家の方の圃場の見学も行いました。果樹は野菜、水稻とも全く違う世界で、とにかく興味深い内容ばかりでした。特にみかんは繁忙期がちょうどお米の裏となるため、非常に気になる存在です。まずは果樹というものの理解からチャレンジしていこうと思います。